

月刊 地域支え合い情報

東日本大震災の被災者の生活を支援するあなたのための情報紙です。



「イシノマキ・ファーム」にて、手作業で安心・安全な野菜を生産する「ユースサポートカレッジ石巻 NOTE」の皆さん

特集 若者と社会をつなぐ

- 思春期や青年期の不調に向き合い、「働きたい」「学びたい」を応援 ③
ユースサポートカレッジ石巻 NOTE (宮城県石巻市)
- 若者のもつ可能性が地域の可能性を広げる ⑤
特定非営利活動法人ハーベスト (宮城県仙台市青葉区)
- 若者が^{さいせい}幸生する街、陸前高田をめざして ⑦
一般社団法人 SAVE TAKATA (岩手県陸前高田市)

場の力⑨

サポートスクエアばおばお (山形県山形市)

被災地でのサロン 男のつどい場の実践 ⑩

私の地域の元気興し ⑫

【特別記事】被災地で考える若者支援のあり方 ⑬

生きがい仕事⑭

有限会社コンテナおおみ (宮城県登米市)

宮城県サポートセンター支援事務所からのお知らせ ⑮

場の力⑯

みんなの家@ふくしま (福島県福島市)



イシノマキ・ファームは、すべて手作業の農園

思春期や青年期の不調に向き合い、「働きたい」「学びたい」を応援

◎ユースサポートカレッジ石巻 NOTE (宮城県石巻市)

ポイント

- 震災による新たな環境下での、思春期や青年期の不調に向き合い、伴走型支援を展開
- 多くの地元企業の協力を得て、若者の就労を支える

石巻駅から徒歩2分。ビルの3階に「ユースサポートカレッジ石巻NOTE」がある。若年層の「働くこと」と「学ぶこと」を支援する場だ。平日10時15分から17時まで、利用登録した人たちが出入りして、パソコンの練習や就職活動のためのメイク講座、コミュニケーション講座、ウォーキングやスポーツ、農作業などのプログラムに自由に参加する。10〜20歳代が多く、参加費は無料。ここに通いながら体調を整え、興味のある分野を学ぶ。働きたい人向けには、有給の職場体験プログラムなどを用意し、同行支援やフォローアップなどを行う。

この日は10時半から12時にパソコン講座が開かれ、2人が参加。エクセルでの表とグラフの作成を学んだ。その周りで、4人がキーボードのタイピングなどの個人練習に励む。午前中で帰る人もいれば、周囲のお店で昼食をとり、午後のプログラムに参加する人もいる。教材やパソコンは、連携する日本マイクロソフト社から無償提供されたもの。ここで学んで、マイクロソフトオフィススペシャリスト検定に1000点満点で合格した高校生もおり、現在はアルバイトに励みながらプログラマーを目指して腕を磨く。

この日集まった6人のうち、10歳代は2人、20歳代は4人。これからの石巻を支えたいせつな人材だ。

思春期や青年期の不調に向き合う

石巻NOTEを運営するのは、認定特定非営利活動法人Switch。障害のある人たちの就労を支援しようと2011年3月2日に旗揚げしたが、同月11日に東日本大震災が被災し、被災者支援に切り替えて仙台市や石巻市で活動を開始した経緯をもつ。

同年6月に仙台市で精神障害のある人を対象とした就労移行支援事業所「スイッチ・センダイ」を立ち上げる一方で、石巻市で震災をきっかけに職場を失い、次の仕事の目途が立たずに悩む人や、新しい環境に馴染むことができずに学校や職場から足が遠のく若者の存在が気になった。思



今野純太郎さん（右）と、小元愛さん

常務理事兼石巻 NOTE 統括プロデューサー 今野 純太郎さん

「若者の『働きたい』『学びたい』という

前向きな思いを応援する」

春期や青年期の不調に向き合う事業者も不足していた。そこで、こころのケアをたいせつにして若年層の「生きる力」を育てたいと考え、13年6月、石巻駅前に「石巻NOTE」を開設した。翌14年に「仙台NOTE」を、15年には石巻NOTEの向かい側に「スイッチ・イシノマキ」を開設し、現在4つの事業所を18人のスタッフで運営する。

協力企業は39社！

石巻NOTEの14年度の登録者は53人、延べ利用者は210人。その4分の3が就労のための利用だ。メンタルケアにあたる支援団体や学校、行政機関などから紹介を受けて利用を始めた人が多く、スタッフの伴走型支援により、さまざまな体験を重ねて自分に合う仕事を探す。

短期が多い職場体験プログラム「インターンシップ」は33人が利用し、有給の職場体験プログラム「バイターン」は45人が利用。特にバイターンは長期に渡



パソコンの練習では、講座を受講するのか個人練習に励むのかを本人が選択

るため、単なる就職活動では得られない「縁」や「恩」や「情」にふれながら、社会との接点を模索できる。実際に、5人が就職につながった。

「石巻圏域には、趣旨を理解して職場体験を受け入れてくださる企業がたくさんある」と常務理事兼石巻NOTE統括プロデューサーの今野純太郎さんは話す。協力企業は、当初の18社から39社に増加。水産業や農業、お弁当の製造、自動車板金塗装、飲食サービス業など幅広く、さまざまな体験を重ねながら自分の適性を見極めることができる。就学・就労コーディネートの小元愛さんも、「事

前にスタッフが仕事を体験させていたいただき、これは〇〇さんに合う仕事だな、と直感してコーディネートすることも多い」と話す。

中間的就労の場

石巻NOTEでは、体面やコミュニケーション、技術面などで最初から就職をめざすことが厳しい人のために、本格的に働く前の中間的な職業体験の場も用意している。

たとえば、牡蠣の出荷作業。共同作業をとおしてチームワークを学び、浜の漁師との交流から一次産業の楽しさを感じる参加者が多いという。

また、石巻NOTEから車で15分のところで、同法人が直営する農園「イシノマキ・ファーム」では、農作業の基本から販売までを体験できる。進路に悩んでいる人や、仮設住宅・復興公営住宅で暮らしている人が送迎付きで参加。自然農法と有機農法の手法を取り入れ、キュウリやトマト、カボチャ、タマネギ、ピーマンなどを生産する。除草剤

や農薬を使わず、草取りや苗・種の植え付け、水やりなどを手作業で担う。40〜50歳代の人もいて、多世代でのコミュニケーションやチーム作業を習得することができる。採れた野菜は、石巻NOTEのそばで直売したり、市内の飲食店に卸している。大根を10本まとめて買っていくお客様もいて、安心・安全な野菜は好評だ。今年度は畑を広げて、企業でも施設でもない第3の働く環境としてのソーシヤルファームの機能を充実させることができればと意気込む。農園でのバイターンを増やしたいという目標もある。

夢は、宮城県全域で若者の「働きたい」「学びたい」という前向きな思いを応援すること。今日も、将来を担う人材を温かな目で見守り、育てる。小

DATA

ユースサポートカレッジ 石巻NOTE

〒986-0826
宮城県石巻市鑄銭場8-23 日和ビル3階-A
TEL 0225-25-5374
FAX 0225-25-5384
E-mail info@npo-switch.org
URL <http://www.ishinomaki-note.org/>